

国際交渉



河村 健太郎

KAWAMURA Kentaro

関税局第一参事官室
(国際交渉担当)
世界貿易機関専門官
平成16年度入省

国際協力



小田 真史

ODA Shinji

関税局第二参事官室
(国際協力担当)課長補佐
平成17年度入省

各国の思惑が交錯する国際交渉の最前線で

日本政府交渉団の一員として

私は、現在、財務省においてWTO(世界貿易機関)交渉を担当しています。WTOでは、モノの貿易だけでなくサービスの貿易や知的財産権といった幅広い分野が扱われているため、外務省をはじめ多くの関係省庁が交渉に携わっています。財務省は幅広い業務を取り扱っていますが、WTOに特化した業務を行っているのは私の係だけであり、案件に応じ、省内で関係する部局とともにその対応について検討を行い、交渉に参加しています。

WTOでは、2021年11月末スイス・ジュネーブにおいて、加盟国の貿易担当大臣が集まる閣僚会議の開催が予定されていましたが、会議の開催を翌週に控えた日本時間の土曜日になって、新型コロナウイルス変異種の感染拡大に伴うスイス国内の規制強化により、閣僚会議が延期されてしまいました。それまでは、閣僚会議における閣僚宣言などの合意文書作成のため、関係省庁とともにその対応について夜遅くまで協議を続けていました。

近年、WTOは機能不全に陥っているとの指摘もありますが、WTO加盟国の有志国によって新たな時代の要請に対応する貿易ルールの策定を目指した交渉なども進められており、財務省関税局・税関もこの交渉の一端を担っています。

幅広い視野と専門性を武器に

四方を海に囲まれた日本では、海外からやってくるモノは税関を通過して日本国内に流通していきます。交渉を経て条約が発効すると、条約の規定が適用された物品が実際に日本に入ってくることになり、税関において必要な検査・審査を行うため、我々は、交渉段階から通関において問題が起きないよう、協定発効後の運用を見据えて交渉に参加しています。そのため、貿易の最前線を担う税関のエキスパートとして、交渉の合意事項がきちんと履行できるのか、実際の現場である税関で問題が起きないかという点を一つ一つ検討した上で交渉に臨んでいます。

関税局・税関を取り巻く環境は刻々と変化しており、過去の踏襲だけでは世界の流れに取り残されるおそれもあります。財務省税関で採用されると、関税政策の企画立案を担う関税局だけではなく、税関の現場、他省庁への向、海外勤務など幅広い経験を積むことができます。税関分野の専門性を有しつつも、幅広い視野を持ち、世の中の動きにアンテナを張りながら、税関の3つの使命を胸に、「守るべきものは守る」、「必要な場合には変化に対応する」という柔軟性とバランス感覚をもって業務に取り組むことができるのが、関税局・税関の魅力ではないでしょうか。

My private time

週末、天気の良い日には外に出かけ、仕事から離れて気分転換するようにしています。馴染みの喫茶店でモーニングを頼み、コーヒーを飲みながらその後の予定を考えることが週末のルーティンとなっています。最近、中学生の時以来となる自転車を手に入れたことで自宅周辺での行動範囲も広くなり、ネットで近くの美味しそうな店を検索してはその店を訪れたり、サウナに行ってみたり(サ活)、リラックステキな過ごし方しています。



時代の要請に応え、世界標準をリードする

世界標準の策定、実施支援

税関の世界では、国際的な機関として、世界税関機構(WCO: World Customs Organization)があり、180を超える国・地域が参加し、民間企業が安心・円滑に貿易を行えるよう、手続きや所要時間の透明性、予見可能性を高め、なるべくシンプルにするための世界的な標準化、統一化に向けた協議や、不正薬物やテロ対策のための効果的な取組手法についての議論などが行われています。例えば、通関時ではなく後から税目的のチェックを輸入者に行う事後調査、輸入したい貨物の品目分類や関税評価について、民間企業が税関に確認する事前教示制度などは、WCOの場で議論・策定された「改正京都規約」という条約に定められています。また、9.11(アメリカ同時多発テロ)を踏まえ、テロ対策を目的として、貨物の情報を、船や航空機が発する前に、船会社などが到着国の税関に連絡する仕組みができました。これも「SAFE基準の枠組み」というWCOのガイドラインに基づくものです。貿易円滑化やテロ対策など時代の要請を踏まえながら、貿易・経済の発展の基礎となるこうした世界標準の策定

を、関税局・税関はリードしています。また、世界標準を策定しても、それが各国において実施されなければ意味がありません。途上国は、実施にあたり困難に直面することが多いため、関税局・税関においては、WCOと協力しつつ、その実施支援に取り組んでいます。

変化する世の中への対応

世界は常に変化を続けています。最近で言えば、ネットショッピングの増加、それによる小口貨物の申告の急増に、税関はどう対処すれば良いかという課題を突き付けられています。そうした時代の最前線に立って、各国の専門家、民間の実務家、他の国際機関の代表と知恵を出し合いながら、ウィンウィンで最適な解を探っていく作業は、大きな責任を感じつつも、常に新鮮でクリエイティブな楽しさを与えてくれます。こうした専門的な議論には、税関現場の感覚も不可欠ですが、関税局は現場との距離が近く、税関の現場での職務にも従事することができます。自分のキャリアにおいても、財務本省での政策立案、税関現場職務、海外留学・勤務とバランス良く経験してきました。

た。柔軟な発想、専門的知識をフル活用して、世界の議論を自らリードしていきたい方は一度、関税局・税関の門を叩いてみてはいかがでしょうか。

My private time

オンオフの切替、プライベートの充実、仕事のモチベーション、効率化にとっても重要です。週末に子供と遊ぶのはもちろんですが、オフ時間は、パンクやハードコアといった音楽を聴く、ライブに行くなんてこともあります。また、適度な運動も必要です。私の場合はバスケットボールを流しています。最近では子供も大きくなって一緒にプレイできるようになりました。



柔軟な働き方

かつてはWCO事務局があるブリュッセルにて対面の会議が行われていましたが、今はオンラインに切り替わっています。出張による移動時間は無くなりましたが、時差の問題があり、日本の夜の時間帯に会議があるのが通例です。その分、勤務時間はかなり柔軟に設定できますので、会議日は、午後からリモートで自宅から勤務開始ということもよくあります。